

12 事務組織

(1) 事務組織と教学組織との関係

【現状の説明】

本学の事務組織は、平成11年の開学以来、事務局（事務局長以下総務担当、運営・情報担当、教学担当）、学生部、図書館で構成されていたが、大学改革を事務の面から進めるため、平成15年4月1日に事務局内に大学改革推進室長（職制）を設置するとともに、地域に貢献する大学を目指し、地域貢献の拠点として、教育研修センター（所長以下職員3名）を設置した。

事務組織の職員は、一般的な県職員の人事制度が適用されている。役付職員は在職2年から3年、一般職員は3年から4年で定期的な人事異動がある。

本学学長は短期大学部の学長も兼ねるため、学長の選出を行う学長選挙の有権者は大学、短期大学部の助手を含む専任教員及び担当課長級以上の事務局職員としている。

選挙で選出された学長候補者は大学及び短期大学部教授会の議を経て、知事に内申され、知事が任命することとなっている。

なお、学生部長、図書館長及び教育研修センター長候補者は学長が本学教員及び同一敷地内に併設されている埼玉県立大学短期大学部教員の内から選考のうえ、知事に内申し、知事から任命される。

本学は、保健医療福祉学部の下に看護学科、理学療法学科、作業療法学科、社会福祉学科の4学科が設置されているが、専門共通科目を教授する教員で組織する一般教育会議、医学教育会議が学科を横断して設置されている。これらの学科、会議では、教学に関する意思決定を行っているが、個々の教学組織には事務職員は存在しない。

本学の事務組織と教学組織は、大学が掲げる教育理念・目標のもと、学長を補佐し、大学の教育研究活動の活性化及び円滑な大学運営の推進に努めている。

事務組織と教学組織は協議会、教授会、大学運営会議、各種委員会において、共通の認識のもと審議を円滑に進行し、質の高い意思決定が行われるよう、お互いに綿密な連絡調整を行い、連携協力して運営に当たっている。

事務組織は、教員からの意見聴取、正確な資料作成、議事の進行・整理支援及び審議結果の学内への伝達等の機能を果たしている。教学組織は、事務組織の支援のもと責任ある適正な意思決定を行っている。

大学運営にあたっては、教授会の下に大学単独の委員会が8委員会、短期大学部と共通の委員会が11委員会ある。それぞれの委員会には事務局職員も委員となっており、教学組織と事務組織の連携が図れるようになっている。

事務組織と教学組織は、地域・社会貢献事業、国際交流事業及び就職支援事業の推進においても、それぞれの役割分担を果たしながら、連携協力して積極的に事業展開を図っている。

以上のとおり、事務組織と教学組織は、車の両輪のごとくバランスのとれた役割分担を担いながら、大学運営全般における協力体制を確立している。

【点検・評価】

本学の設立の主旨である「連携と統合」は、教育・研究の面における専門性を担保しつつ全学の一体性を目指すものであるが、大学運営全般における全学の協力体制の確立も目指すものであ

る。

大学運営の複雑化や大学を取り巻く状況の変化の中では、機動的で適正な意思決定が求められている。教員の活動は、教育研究活動のみならず、地域・社会貢献活動、学内委員会活動等多岐にわたっている。

事務組織は、教育・研究活動の支援事務のみならず、各学内委員会・部会並びに外部有識者を構成員とする大学運営協議会の運営過程においても会議の設営、進行管理、会議結果の整理、学内への周知等の面で教学組織の支援事務を行っている。

事務組織と教学組織は、さまざまな場面で意見交換を活発に行い、問題意識を共有し、円滑な大学運営の推進に努めている。

本学は、大学と短期大学部の統合・再編という重要かつ緊急な課題に全学をあげて取り組んでいる。この過程において検討すべき項目は多数あり、事務組織と教学組織は、議論を尽くして、将来の大学像を具体化しつつある。

事務職員は、行政的な知識、経験を持つ者が配置されているが、大学運営及び高等教育行政に精通した者の確保は十分とはいえない。大学運営、大学改革に対する意識を向上させるための職員研修及び蓄積された情報を適切に引き継ぐ努力が必要である。平成14年度に外部有識者を招いた大学改革の推進及び公立大学法人化についての教職員研修会及び講演会を8回開催し、大学運営、大学改革に対する意識の高揚が図れた。

【将来の改善・改革に向けた方策】

大学の事務組織と教学組織との機能分担と連携協力を進めていくためには、事務処理機能の高度化及び職員の資質の向上を図る必要がある。

本学においては、情報システム（共通システム、教育・研究システム、図書システム、学務システム）が大学全体として整備され、大学の教育・研究活動の高度化、多様化、活性化を推進するとともに、事務処理の合理化を図っている。

埼玉県においては、文書管理、財務管理、人事管理等のシステム化が推進され、財務管理については見直しを行い、平成16年度から次期財務会計システムの実施が予定されている。

また、教職員一人一人が大学運営、大学改革の責任を担うことを自覚し、積極的に取り組む意識を啓発するため、平成15年10月と12月にカリキュラムに係る教職員研修会を開催した。今後も継続して研修会を企画し、全教職員一丸となった大学運営、大学改革を目指す。

平成15年4月に大学と短期大学部の統合・再編推進委員会が設置された。大学と短期大学部の統合・再編は、学生定員増を図りつつ、一つの大学として効率的な運営を可能にするものである。

大学と短期大学部の統合・再編の検討の過程で大学運営の重要案件である人事、規程、制度等に係る意思決定が増加することが予想され、限られた人員・期間で処理しなければならない。このため、事務組織と教学組織は、連携協力しつつ積極的な議論を行い、自らの意思により大学改革を推進しなければならない。教職員の意識啓発のために、大学と短期大学部の統合・再編推進委員会における検討状況は、全ての教職員が傍聴可能であり、検討結果は学内電子掲示板に掲載・開示している。

この検討と平行して、大学全体における合理的で責任ある質の高い意思決定体制への見直しを行っており、具体的には、教授会と教員会議の運営の見直し、各種委員会の統合・委員構成の改善等を検討することとなっている。

(2) 事務組織の役割

本学の事務局の役割は、財務、人事、施設等の管理、並びに教員及び学生への教育研究活動に対する支援事務である。

事務組織においては、諸制度、予算を踏まえて、大学運営、大学改革において学長を補佐して、保健医療福祉系という県立大学の特色を十分に発揮した教育活動や社会貢献、地域連携事業の支援を行い、教学組織と連携協力して魅力ある大学づくりを目指している。

また、一人一人の事務職員が各人の事務の遂行にあたっては、大学運営の一翼を担っていることを自覚するとともに、積極的な事務処理の工夫、改善に努めている。

1) 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性

【現状の説明】

大学の教育力の強化を図るため、教育重視の大学として、学生の教育等に関するニーズへの対応、教員資質の向上及び実践に即した教育技法の向上に係る方策について事務局も参加して教務委員会において推進に係る検討を行っている。

また、教務担当、入試・学生担当が担当する試験及び単位の認定、カリキュラム編成、学生募集、入学試験関連並びに学生への支援等の経常業務においても、教務委員会、入試委員会の審議に事務局が参加し、審議の結果に基づき、事務を執行している。

【点検・評価】

教学に関わる企画・立案は教務委員会、入試委員会が中心に行っており、事務局は、主として意思決定過程における資料提供等補佐機能に携わるとともに、承認された事業の執行を担当している。

経常的業務においては、事務局からの提案に基づき委員会で審議する場合もあるが、新しい事業展開における企画・立案は、十分とは言えない。

【将来の改善・改革に向けた方策】

少子高齢化社会の到来により、時代の要請に応えた教育力のある魅力ある大学づくりを目指すためには、教育機能の拡充が必要である。今後は、従来の固定観念に捕らわれず、必要な場合は、事務組織も教学に関わる具体的な企画・立案に積極的に携わっていかなければならない。

大学と短期大学部における統合・再編推進委員会において、新カリキュラム、新学科の構成及び学生定員等、将来の大学の根幹をなす最重要課題を検討しなければならない。

この大きな大学改革を推進するためには、事務組織も様々な情報収集を行い、積極的な提案と意見交換を行っていく必要がある。

2) 学内の予算（案）編成・折衝過程における役割とその活動の適切性

【現状の説明】

本県財政は、県税収入の低迷や義務的経費の増加により、かつて経験したことのない厳しい状況に置かれている。こうした厳しい中にあっても県立大学の特色を十分に発揮した教育・研究活動や社会貢献、地域連携を積極的に推進していく必要がある。

県の予算編成方針に基づき、既存の事業内容をゼロベースで見直し、新規事業を盛り込みなが

ら、限られた財源の範囲内で最大の効果が上がるような予算編成に努めている。

事務局は教学組織から次年度の教育研究活動に要する予算要望等を提示してもらい、事務局の各担当が作成する大学の管理運営に係る予算と合わせて、適正な予算要求内容であるか精査する。教学組織の要望が反映されるとともに、大学の管理運営が円滑に推進できる予算が確保できる予算要求となるよう努めている。事務局は主管課及び財政当局に対して、大学の各事業の必要性及び重要性を理解してもらえようような予算要求資料の作成及び予算説明を行っている。

【点検・評価】

大学間競争に勝ち抜くためには、より魅力ある大学を目指し、教育研究活動以外にも、社会のニーズにあった講座の開発やさまざまな学習希望に対する柔軟で弾力的な受け入れ体制の整備等、様々な新しい取組を行っていく必要がある。

今後の予算編成にあたっては、既存の予算を改めて見直し、財源を生み出す努力をするとともに、収入の確保を図る方策を検討していく。

また、費用の節減、事務の効率化が図れる業務に関してアウトソーシングの拡大を検討していく必要がある。

大学の活動内容を社会や設置者にアピールしていくことも予算獲得のために必要なことであり、様々な機会を捉えて大学の活動を紹介していく。

【将来の改善・改革に向けた方策】

極めて厳しい財政状況の中、前年度と同じ手法、同じ金額では事業を実施することはできないという基本的な認識を持つとともに、大学の教育研究機能を向上させ、県立大学としての本質的な使命である地域への貢献を推進するための予算編成を行っている。

また、学科要望の内容の調査、検証を行い、要望に沿うとともに、県から示される予算枠内に納まるように予算編成を行っている。

事業の見直しにより、平成 15 年度から教員研究費は、個人研究費を廃止し、奨励研究費に特化することとした。これにより教員の意欲を引き出し、また外部評価の導入により、研究の成果を高めることとした。

さらに、教職員にコスト意識を徹底し、日頃から光熱水費、コピー代等の削減に努める一方、全学をあげて教育の質の向上・研究活動の推進に努め、効率的、効果的な大学運営を目指している。

3) 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性

【現状の説明】

教授会には事務局から事務局長、事務局副局長及び大学改革推進室長が出席している。審議において議決権はないが、必要な意見を発言することにより、学長の支援を図っている。

また、学長の職務を支援する観点から事務局長、事務局副局長及び大学改革推進室長は、大学運営会議の構成員でもある。

さらに、事務局長、事務局副局長及び大学改革推進室長は、埼玉県立大学及び埼玉県立大学短期大学部に共通する重要事項を協議・調整する埼玉県立大学協議会の委員となっている。

事務局は、教授会における最終的意思決定の議決権はないが、様々な意思決定の過程に参加し、大学運営に携わっている。

また、協議会、教授会、運営会議及び各種委員会において、事務局は運営の支援を担当してお

り、審議が円滑に進行するよう議長及び委員長を補佐し、会議結果の取りまとめも担当し、進行管理の一翼を担っている。

なお、効率的かつ円滑な大学運営に資するため、教授会の審議結果は事務局において議事録として整理し、会議資料とともに学内電子掲示板に掲載・開示して教職員への周知徹底を図っている。

【点検・評価】

現在、事務組織は、主として大学の円滑な意思決定を支援する組織として学内機関はもとより、外部有識者を構成員とする大学運営に関する審議機関の運営にも携わっており、これら審議機関の審議結果を整理し、教授会における最終的意思決定に至るまでの間、正確な情報を伝達していく役割も担っている。

また、設置者との合意形成や意見調整を担う役割もあり、大学の意思決定過程において設置者との意見調整を必要とする場合もある。

大学改革の推進のためには、各審議機関における事務組織の様々な検証に基づく積極的な発言も必要とされる。

【将来の改善・改革に向けた方策】

大学と短期大学部の統合・再編の検討過程で大学運営全般の見直しが図られ、大学の意思決定のあり方についても検討が進められている。学外有識者の提言、さまざまな資料収集を行い、全学で協議しながら新生大学の形を具体化していく途上にあるが、その中であって、事務局は、各種審議機関における大学運営に係る意思決定の過程で学長を補佐するとともに、審議に積極的に関わっていく必要がある。

4) 国際交流、入試、就職等の専門業務への事務組織の関与の状況

【現状の説明】

国際性の重視は、本学の教育目標の一つである。本学における国際交流事業の位置づけ、地域の国際交流の推進及び留学生の受け入れ等について国際交流委員会において総務担当、入試学生担当及び教育研修センターが審議に参加している。

入試業務全般については、入試実施委員会、入試委員会の審議に入試・学生担当が参加し公募、入学試験等の実施方針を毎年見直しながら、協議の上、事業を実施している。

県内での質の高い卒業生の就職を推進していくことは県民の保健医療福祉サービスの向上という点からも重要である。このため、進路支援委員会に入試・学生担当が参加し、教員・職員が一丸となった新たな県内就職先の開拓等により県内就職率の向上を図っている。また、国家試験合格率100%を目標に国家試験への対応にも力を入れている。

【点検・評価】

国際交流、入試、就職等の内、一定の専門化された機能については、担当事務組織にゆだね、担当事務組織にゆだねることが困難な判断や方針を決定することは、教学組織との協議を行うことが適当であるが、現在は、それぞれの課題を委員会で協議し、その協議結果を教員と事務局が連携協力して実施することとなっている。

平成15年度に国際交流委員会と進路支援委員会を新たに立ち上げ、活動を開始した。

国際交流委員会では、留学生の受け入れ、学生の海外研修及び地域における国際交流事業につ

いて具体的検討に入り、国際化への対応の準備に入った。

進路支援委員会では、学生の就職及び進学支援のための様々な方策を検討しており、県民の保健医療サービスの向上のために、推薦入学枠を拡大することなどにより県内出身学生の割合を増加したり、教員・事務局が一体となって新たな就職先を開拓するなど県内就職率の向上を図っている。

国際交流事業については、平成15年度から活動が開始されたため、現時点では、事務局の経常業務には組み込まれていない。

入試業務は、毎年、見直しを行っているが、専門性が高い分野であり、ルーチンワーク化した部分は入試・学生担当にゆだねられている。

就職関連については、事務局では入試・学生担当が中心となり、全学的協力体制の強化促進を支援している。

【将来の改善・改革に向けた方策】

国際交流事業は、事務局だけで推進できるものではなく、全学の協力体制が必要である。留学生の受け入れ、学生の海外研修、国際交流シンポジウムの開催など、今後、事業展開の拡大が見込まれるため、予算措置の対応とあわせて、関連する事務局の協力体制の検討を要する。

県立大学は県民の貴重な税金で運営されている大学であり、県内の就職率向上のための方策については、学長を中心に全ての教職員が力を合わせて取り組んでいる。平成15年5月には新しく県内就職促進対策会議を設置し、事務局長が会議の構成員となり、県内就職率を向上させ、本県の保健医療福祉に貢献できる大学づくりを進めている。

大学と短期大学部の統合・再編により学生の公募及び入学試験業務の変更も必要になるため、事務局組織の変更も検討される。

5) 大学運営を経営面から支えうるような事務局機能の確立状況

【現状の説明】

大学運営を経営面から支えうる組織に当たるのは事務局全体であり、事務局長の統括の下、個々の担当が自らの事務分掌を全うすることによって、一つの機能として確立する。

県民の税金である一般財源に頼らない自立した大学運営を行うため、平成15年度を初年度とする3カ年の大学運営費全体の収支改善計画を作成した。

この計画は平成18年度を目途とする大学と短期大学部の統合・再編などを踏まえ、学生定数の見直し、授業料の改定及び人件費の削減を含む数値目標を設定し、平成15年度からの年次計画を立てて、収支改善策を進め、健全な大学運営のための財政基盤を整えようとするものである。

この年次計画に沿って、より一層効率的、効果的な大学運営に取り組んでいる。

【点検・評価】

本学の事務職員は埼玉県職員であり、大学経営を専門に学んだ者はいない。しかし、公立大学の職員として、県民のニーズに応える必要があり、私立大学における創意工夫や経営手法を積極的に取り入れて、教職員の意識改革や制度改革を進めなければならない。

また、本学の財務について学校法人会計基準に基づく財務分析を行うとともに、私立大学が採用している経営指標などによる評価制度等を取り入れ、保健医療系の私立大学と比較評価を行う必要がある。

これらの分析や比較評価により経営上の問題点を洗い出し、教職員の経営意識を高め、私学の

経営手法や民間企業の考え方を本学の経営に生かしていく必要がある。

事務局が中心となり、各担当業務において行政的視点のみではなく、大学経営の面から組織及び業務を見直し、大学改革を図っていく必要がある。

【将来の改善・改革に向けた方策】

厳しい財政状況の中、本学においても大学改革を進め、運営の効率性を高めていくことは、不可欠なことである。

とりわけ、県民の税金である一般財源の削減のために、教職員の意識改革を図って、経費の節減に一層の努力をするとともに、大学としての歳入を増やすため、経営基盤の強化及び適正な受益者負担の観点から平成16年度入学生から独自の授業料を導入する一方、全学を上げての外部研究資金の獲得及び自主事業の実施等による収入の確保により財政基盤の強化を図らなければならない。

大学と短期大学部の統合・再編の検討の過程の中で事務局組織の見直しを図り、ルーチンワークの削減によって生み出される事務局職員で外部研究資金獲得のための部門を新たに構築するなど、機能的な組織とするための検討が必要である。